

生活福祉委員会会議録

平成25年9月3日	10時00分	開 会
	10時18分	閉 会

網 走 市 議 会

午前10時00分 開会

○渡部委員長

皆さんおはようございます。

ただいまから生活福祉委員会を開会いたします。

本日の委員会でございますが、議件は次期ごみ処理施設整備計画の進捗状況についての1件です。

まず初めに説明をお願いしたいと思います。

梅津生活環境課長。

○梅津生活環境課長

私のほうから、次期ごみ処理施設整備計画の進捗状況について説明をさせていただきます。

資料1号をごらんください。

1の説明会開催の経緯でございますが、⑩の平成24年11月28日に開催した説明会までは、平成24年11月30日開催の生活福祉委員会にて説明をしているとおりでございます。

⑪の平成25年3月15日に開催をしました、漁業協同組合の説明会の件から説明をいたします。

その説明会では、明治地区と八坂地区それぞれで施設を整備した場合の比較検討資料を用いまして、明治地区を第1候補としていることについての説明をしております。

比較検討資料につきましては、参考資料1ページに検討しておりますが、比較項目15項目についてそれぞれ検討をした内容を示しております。

漁業関係者から施設整備期間中の防災工事や埋立処理場の遮水構造及び不具合があったときの漁業資源等への影響についての意見や質問が出されております。

⑫の7月26日の説明会では、3月の説明会で意見や質問があった最終処分場の水処理の流れ、埋立処分場の遮水構造、防災工事の計画について説明をしております。

参考資料の2ページをごらんください。こちらは一般的な最終処分場の遮水構造を示した概略図で、二重の遮水シートの敷設と漏水検知センサーの設置状況をあらわしております。

遮水シートの施工時には、加圧検査もしくは負圧検査により、水密性の確保を確認することとしていることを示しております。

3ページをごらんください。こちらは一般的な二重の遮水構造と最大限に安全性を高めた三重の遮水構造を示した図となります。市としまして

は、漁業関係者が不安視する浸出水の地下浸透を防止するため、二重よりさらに安全性の高い三重の遮水シート、プラス、二重の漏水検知システムを採用する提案をしているところでございます。

4ページ目をごらんください。こちらは施設整備期間中、もしくは稼働期間中における土砂流出等に対応する防災工事計画となります。

工事区域内の濁水は雨水調整池を経由しまして、濁水沈殿池に流入する量が調整されるようになっております。濁水沈殿池はだんだん畑のような構造になっておりまして、各段に濾材を設置して、徐々に下へと流れることにより土の粒子を取り除きます。

また、想定を超えた大雨に対応するため、沢底に大型土のうを積みまして、予備の濁水沈殿池とすることの説明をしております。

5ページ目をごらんください。こちらは明治地区に処分場を新設し、防災工事を実施した場合の配置図でございます。

左側から破砕リサイクル施設、浸出水処理施設、生ごみ堆肥化施設、中央の大きな緑色の部分が最終処分場、その右側が先ほど御説明いたしました防災設備となります。配置図につきましては、八坂地区で新設した場合の配置図も同様に示しております。

また、漁業関係者から明治地区、八坂地区双方の候補地の現地視察の希望がありましたので、日程について協議をいたしまして、8月29日に双方の候補地を視察しております。

次に、⑬番地域への説明会でございます。8月26日の明治、文化地区での説明会では、計画する施設の概要、候補地における各施設の配置図、冬の生活環境影響調査の結果について説明をしております。

今後、この内容と同じ説明会を他地区でも開催をする予定としております。また、現在調査を行っている下記の生活環境影響調査が、まとまりましたら再度説明会を開催する予定をしております。

次に2の業務の発注状況でございます。③の一般廃棄物処理施設地質調査業務までは平成24年11月30日の生活福祉委員会において説明をしているとおりでございます。

④番の一般廃棄物処理施設基本計画業務でございますが、生ごみ堆肥化施設におきまして、市内

の事業者で事業系生ごみの堆肥化をする施設の整備を進めているところがございまして、当初の1日の生ごみ処理量に変更が生じているということもありまして、現在の処理施設の規模や処理方式等の見直しをするよう、基本設計の受注業者に指示をしているところでございます。

また、破碎リサイクル施設におきましても、容器包装プラスチックの処理ラインの見直し検討の作業も進めております。

あわせて実施いたしました生活環境影響調査につきましては、内容としましては大気、騒音、振動、交通量、地下水の水位というのが調査項目になっております。

また、本調査につきましては少なくとも12カ月間の調査期間が必要なことから、6月28日に下記の調査を発注し、平成24年度調査の継続分を現在実施しているところでございます。内容としましては、冬季の調査項目に悪臭と水質を加えた7項目が調査項目となっております。

これらの調査結果につきましては、告示縦覧をして、関係住民からの意見の提出を求めることになります。

このように、生活環境影響調査が当初の予定より遅れていること及び住民説明会、関係団体への説明会を今後も継続する必要があることから、当初説明しておりましたスケジュールより遅れることが予想され、そのことに伴い生ごみ堆肥化施設および破碎リサイクル施設の着手が遅れるということが予想されております。

以上が次期ごみ処理施設、整備計画の進捗状況となります。

○渡部委員長

それでは質疑に入りたいと思います。

○松浦委員

この間の状況についてはわかりました。

こういう施設というのは、必要不可欠なものです。どうしても必要なものであるのだけれども、しかし一般的には迷惑施設というふうにも言われていて、そういうことでいろいろと慎重に取り組まなければならないものだというふうに思います。

そういう点では、関係団体あるいは地域住民との関係でいうと、しっかりと理解をしてもらうという事が大事で、ここで問題が生じるとそれこそ今後この施設そのものを作っていくうえで、大き

な問題となるというふうに思いますので、そういう点では慎重に行うべきだろうというふうに思います。

それで、一つは明治、文化地区で8月26日に説明会をしたということなのですが、そこで上がっている意見というのはどのような意見、あるいは心配事が出されているのか伺いたいと思います。

○梅津生活環境課長

8月26日の明治、文化地区の説明会では、主に生活影響調査の結果について説明をしましたが、その中で出された質問としましては、風向きですとか、そういった超過項目と交通量の調査の実施の仕方についての質問があげられておりました。

○松浦委員

そういう点では例えば、この施設に対する、不安とかそういったものは特に出なかったというふうに受けとめていいですか。

○梅津生活環境課長

施設に対する質問というのは、やはり、においの発生についての心配というのが1番懸念される点だというふうにとらえております。

○松浦委員

その辺はわかりました。

あと問題はやはり漁業関係者の理解ということでは非常に大事だということだと思います。

どこにこういう施設ができようとも、最終的に心配される、もし漏水が起きたときにどうするのだということが、最終的には海に流れていくということなので、そこでやはり漁業関係者は非常に神経を尖らせるということだろうというふうに思うのです。

それで先ほど説明の中で、遮水構造として二重遮水よりも、より厳密にといいますか安全性ということで三重遮水シートをするというような説明もありましたけれど、確かに二重より三重のほうが、安全性は高まるに決まっているのですが、それでも漁業者の心配事としては、それでも万が一ということがあった場合に、どう対応するのだということが理解されるということが大事なのだろうというふうに私は思うので、その辺ではどんなふうにお考えですか。

その辺ではどのようにお考えですか。

○梅津生活環境課長

やはり漁業者からは、そういった万が一の場合

どうなるのかというような質問がありました。

三重目が破れた場合にはですね、地下水に入り込んでいって、最終的にはやはり海に出てしまうこともあるのですが、そこに行くまでに検知システムがございまして、1枚目が破れた時点で漏水検知システムが働くと思っておりますので、それが働いた時点ではその箇所についての修理が必要になってくるというふうには思っております。

○松浦委員

一層目が破れたときに、その場所を早く発見して、そこを掘り返すなりして修繕すると思うのですが、それがうまくいけばいいと思うのですが、やはり心配事としていわゆる最終処分場に捨てるごみの質によっては、場合によっては刺さっていくという可能性は十分あるので、その辺のやっぱり説明というのが非常に大事になってくるだろうと。

ここの心配がわかったというふうになれば、関係者も理解をしてくれるだろうというふうに思うので、その辺の非常に説明あるいは中では、大事なことだと私は思うものですから、聞いておきます。

私のほうからは以上です。

○渡部委員長

他に質疑ございませんか。

○山田（俊）委員

今回、比較検討資料というのをいただいていますけれども、八坂と明治の比較はされたのですが、今現在、明治地区でやっていこうという調査が行われていると。

そこで、今回、八坂増設案というのが出ていますけれども、この辺についての説明会の中で何か言われたことはありませんか。

○後藤市民部長

今お話ありましたとおり、八坂地区と明治地区での比較検討資料を出させていただいたのと、それから八坂地区にも新しい施設をつくったらどうなるかということも漁協とは話しております。

お互いに明治地区であっても八坂地区であっても、漁業者はどこにつくっても何かあったときに地下水によくない物が流れ出るのではないかと、ということで、それで漁業資源がだめになってしまうという懸念が十分あるということです。特に八坂だからどうだ、明治地区だからどうだという議論ではなくて、まず、しっかりと安全性を

保てるような施設、それをまず考えるべきだということの議論で進んでおります。

○山田（俊）委員

説明資料の中で安全ということで、たまたま八坂を上げたというだけなのか。

たとえばですね、今、調査が明治地区ということで、とりあえず進んでいると。比較検討案で出している八坂地区というのは、調査とかをやっているわけではないのだけど、とりあえず資料としてまた出していると。考えようによっては、調査の段階でどうしても明治に不具合があったとしたら、次の段階でほかのところ、例えば増設案ですとかにいく可能性というのはあるのかなと思って質問いたします。

○後藤市民部長

この資料を求められた経過としましては、網走市が最初に候補地として明治地区が一番であるということで、そこで調査を進めていきますというお話をさせていただいて、2回目の説明会をやったときに、もう一度八坂についての可能性というものを検証しようということが議論としてありましたものですから、それでこういう資料を持って、漁協と説明をしてきたという経過です。

それから防災工事につきましても、その後、現況で押さえられている地形図をもとにしまして、新施設を作った場合の比較を示して、協議をしてきているというところでございます。

○山田（俊）委員

とりあえず説明はわかりましたので質問を終わります。

○渡部委員長

他に質疑ございませんか。

（「なし」の声あり）

○渡部委員長

ないようですので、ここで皆様にお諮りをしたいと思います。

ただいま御説明のございました次期ごみ処理整備の明治地区と今現在の八坂の地区を所管事務調査といたしまして、現地の調査に行きたいと思いますが、そのことについて皆さんよろしいでしょうか。

（「よし」の声あり）

○渡部委員長

また、委員外議員の参加についての御承認をいただきたいと思います。よろしいですか。

(「よし」の声あり)

○渡部委員長

それでは委員外も一緒に行くということで、理事者のかた、よろしくお願いいたします。

委員会終了後に行きたいと思っております。

これで生活福祉委員会を閉会いたします。

午前10時18分 閉会